

報告

日本天文学会 天文教育フォーラム

大西 高司（天文教育フォーラム実行委員／名古屋市科学館）

1. はじめに

岐阜大学で行われた2007年日本天文学会秋季年会において、9月26日（水）18:00-19:00に、日本天文学会との共催で天文教育フォーラムが行われました。今回のテーマは「法人化・指定管理者制度化の前と後」でした。大学や研究機関の法人化と、社会教育施設の指定管理者制度導入を一体として考え、その意識や知識を共有することが目的でした。司会は、黒田武彦氏（西はりま天文台）にお願いし、富田晃彦氏（和歌山大学）、岡村定矩氏（東京大学）、安藤享平氏（郡山市ふれあい科学館）にはそれぞれの立場から基調講演をいただきました（図1）。そして後半は、講演者に対する質問や意見の形を取りながら、会場全体でテーマに関連した討論を行いました。参加人数はおよそ80名でした。

2. 基調講演

和歌山大学の富田晃彦氏から、「和歌山大学で10年勤めた者から見て」という題で、法人化による大学の変化について講演がありました。法人化後は、個々の学部ではなく、大学全体としての意思決定が明確になったこと、そして大学が地域に対する役割を果たしていくために、知恵を絞ってそれぞれの特色を出していく必要があることが報告されました。

東京大学の岡村定矩氏は、「東京大学の執行部の一員から見て」として、大学運営への法人化の影響について講演されました。その中で、一部の大学や研究機関に資金を集中させるのではなく、全体の資金配分を増やさなければ日本の国際競争力は向上しないとする東京大学の「ビジョン2030」についても紹介されました。

郡山市ふれあい科学館の安藤享平氏は、「社会教育施設の立場から」として、指定管理者制度の現状について講演されました。公の施設が、民間団体に委託され利益追求も有り得るという中、管理者として指定された団体の長期的責任や、その公共性をいかに保つか、難しい問題として残されているということでした。



図1 天文教育フォーラムの様子

3. 討論

基調講演の後、会場からの意見をもとに討論が行われました。大きな変革の中で、大学や研究機関、社会教育施設の質をどう評価すべきかという意見や、協調体制も重要であろうとする意見も出されました。また、運営面については、一部に資本投下を集中することで、研究教育のレベルが上がるとする「市場原理的な考え方」は誤っているのでは、という講演内容に沿った意見も出されました。

今回のテーマを通じて、それぞれの立場からの実践と議論をさらに深めていく必要があることを強く感じるフォーラムとなりました。

大西 高司